
GLP、GRESB調査でアジアセクターリーダーに認定

Edited By LogisticsToday On 2017/09/27

グローバル・ロジスティック・プロパティーズ（GLP）は27日、同社が運用する「ジャパン・インカム・パートナーズI」がグローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク「GRESB調査」のインダストリアル私募ファンド部門で、アジアのセクター・リーダーに認定されたと発表した。最高位の「グリーンスター」評価を取得したと発表した。

GRESBは運用機関のESG（Environment、Social、Governance）の取り組みを「マネジメントと方針」、ポートフォリオの「実行と計測」の2つの軸から評価するベンチマーク指標で、マネジメント、ポリシーと開示、リスクと機会、モニタリングと環境管理システム、パフォーマンス指標、グリーンビルディング認証、ステークホルダーとの関係構築などの7項目によって構成している。

2017年は、世界各国の850の上場・非上場の不動産会社・ファンドが参加。このうちインダストリアル私募部門への参加は61機関となっている。

今回の認定では、ジャパン・インカム・パートナーズIの運用施設でのエネルギー消費量やCO2排出量を対象としたデータマネジメントシステム、グリーンビルディング認証の取得などが高く評価された。

また、GLPは、アジアのセクター・リーダーに認定されたほか、併せてGRESB評価で「Green Star」評価を、「GRESBレーティング」では、「4スター」の高評価を取得した。

絶対評価による「Green Star」は4つに分類される評価の中で最も評価の高い分類にあたり、相対評価によって5段階に格付けされる「GRESBレーティング」では「5スター」が最高位となっている。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/300352>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.